

■ **前田利長** **加賀藩初代藩主**。前田利家の嫡男で、豊臣秀吉への思いを抱えながら、徳川家康に帰順し、百万石の礎を築いた。
まえたとしなが
純忠長崎開港1562 = 尾張国荒子城で、織田信長の家臣前田利家の嫡男に生まれる。母は芳春院まつ。幼名犬千代、初名利勝。

織田信長入京1568 = 6歳：

比叡山焼討・1571 = **9歳**：
初めは安土城で織田信長に仕えた。

石山合戦終・1580 = **18歳**：
バ`リヤノ謁見 1581 = 19歳：父が能登に転封になり、父の旧領越前国府中の一部を与えられ、信長の娘永姫(6歳)を室に迎えた直後、
本能寺の変・1582 = 20歳：上洛中、近江瀬田で、本能寺の変を聞き、永姫を尾張国荒子へ逃がして、父と共に柴田勝家に与するが、
賤ヶ岳の戦い・1583 = 21歳：賤ヶ岳の戦い後、父と共に越前府中城へ撤退。父が羽柴秀吉に恭順し、ともに従軍。勝家の自刃後は秀吉に仕え、加賀国石川郡のうち、松任4万石を与えられ、さらに、
豊臣秀吉関白1585 = 23歳：佐々成政を制圧した秀吉から、越中国射水郡・砺波郡・婦負郡32万石を与えられ、父の監督下とはいえ、
バ`リン追放令 1587 = 25歳：九州平定では、藩生氏郷と共に岩石城を落とす活躍、
刀狩海賊取締1588 = 26歳：豊臣姓を下賜され、
・・・・・・1589 = **27歳**：この頃、利長と改名。
秀吉全国統一1590 = 28歳：小田原征伐にも従軍し、各地を転戦して功績を立てる。

関白秀次事件1595 = 33歳：越中の残る新川郡をも加増され、
豊臣秀吉没・1598 = **36歳**：*豊臣政権の五大老として徳川家康に対抗する父から、前田家家督と加賀の金沢領26万7,000石を譲られ、
前田利家没・1599 = 37歳：父が病死したため、その跡を継ぎ五大老の一人、かつ豊臣秀頼の傅役になるが、直後に、党派抗争が始まって、対徳川の急先鋒の立場に立たされると、父の遺言を無視して、金沢に戻り、母自らが、家康の人質になること、養嗣子利常の室に、徳川秀忠の娘珠姫を迎えることなどを約して、家康に帰順するが、豊臣家と強い関係がある者はじめ、多彩な出自を持つ家臣団の統制に苦心することになる。
関ヶ原の戦い・1600 = 38歳：男子ができず、異母弟の利常を養嗣子として迎える。*家康出陣中に石田三成らが挙兵すると、徳川方として戦功を挙げるも、母の金沢帰還はならず、父が遺言で後継に命じていた弟利政を西軍に加担したと訴え出て、戦後、利政の能登の七尾城22万5,000石と西加賀の小松領12万石と大聖寺領6万3,000石が加領され、加賀・越中・能登の3ヶ国にまたがる日本最大の加賀藩が成立するに至るが、家臣同士の対立は深刻化、
朱印船制始・1601 = 39歳：19か条からなる定書を制定して、家中の引き締めを図るが、自らも、京都の豊国神社に参詣し、
東本願寺創建1602 = 40歳：再び参詣するなど、豊臣家への思いは強く、問題の家臣を暗殺させ、信任する3人を筆頭家老とするも、なお、家臣団の対立は熾り続ける。
徳川家康隠居1605 = 43歳：伏見城の家康、秀忠に謁見し、嗣子利常を披露。*越中国新川郡富山城に隠居。家督を譲った幼い利常の藩政は、筆頭家老に委ね、以後、徳川方に対する豊臣方という自らの存在を消すことに努め、
家康駿府退隠1607 = **45歳**：家康の退隠のための駿府城築城に動員された際、家臣のうち、従わない者2名の首を刎ね、4名を追放するという厳しい処罰を下すなど、家臣団の統制には怠りなかったが、
島津琉球支配1609 = 47歳：富山城が焼失、射水郡関野に高岡城を築いて移住してまもなく、梅毒による腫れ物が悪化して病臥。わざわざ、徳川家に病状を知らせた上、医師団の派遣を頼み、隠居領から10万石を本藩へ返納するなど、
山田長政渡航1611 = 49歳：一時病気で重篤になって、遺言を認める。*利常の補佐と、徳川家とのパイプ役として、家康が最も信頼した家臣本多正信の次男政重(正純の弟)を加賀藩に迎えて、加賀藩の将来を確実なものになるようにして、
支倉常長渡欧1613 = 51歳：豊臣家より織田頼長が訪れ勧誘を受けるも、拒否。
大坂冬の陣・1614 = 52歳：病はますます重くなり、高岡城で、没した。手を尽くして、親徳川路線を敷いた上、大坂の陣を前に、前田家を存続させるため、医師団への疑いが生じぬよう配慮の上、服毒自殺したらしい。